

副専攻名 考古学・文化資源学

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「考古学・文化資源学概説A・B」を中心に学ぶ。2年次以降は、考古学、比較文化学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方を習得するため、「考古学概説A・B」、「比較文化学概説A・B」、「文化遺産学概説A・B」を学ぶほか、一定の専門性をもった科目の選択によって、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。

副専攻の学習成果

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からフィールドワークを中心にアプローチし、得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4
41876	考古学・文化資源学概説A	プログラムを構成する諸分野の学問の基礎的知識と方法論を学ぶ。	1			*	
41877	考古学・文化資源学概説B	プログラムを構成する諸分野の学問の発展的な知識と方法論を学ぶ。	1				*
21203	比較文化学概説A	南アジアの仏教美術を理解するとともに、人間の文化的所産としての宗教を、幅広い視野から考察することをめざす。あわせて、仏教の基本的な考え方を身につける。	2			*	
21204	比較文化学概説B	日本の仏教建築、神社建築に見られる伝統的な建築技術の変遷を通して日本文化の形成とその発展の過程を理解する。	2			*	
21207	文化遺産学概説A	いわゆる有形・無形の別を問わず、また、日本国内ばかりではなく世界各地の事例についても、文化遺産全般に対する関心を高め、併せて基礎的な知識を習得する。	2				
21208	文化遺産学概説B	いわゆる有形・無形の別を問わず、また、日本国内ばかりではなく世界各地の事例についても、文化遺産全般に対する関心を高め、併せて基礎的な知識を習得する。	2				*
21209	考古学概説A	様々な考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域の歴史を復元する能力を習得する。	2～4	*			
21210	考古学概説B	様々な考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域の歴史を復元する能力を習得する。	2～4	*			
41878	文化資源学の方法論	文化資源学を構成するさまざまな分野の具体的な方法論について、体系的に学ぶ。	2	*			
41879	考古学の方法論	考古学的調査により得た資料をどのように整理・分析し、新たな知見を得るのかを学ぶ。	2		*		
4188	プログラム基礎実習	調査テーマの選び方、聞き取り、参与観察、音声・画像・ビデオ・データの記録・整理・活用、文字記録のつけ方と整理・分析法、仮説の形成ときたえ方、報告書の構成法などを実習を通して身につける。	2			*	*
41464	仏教文化論	インドで起こり、日本を含むアジア各地に伝播した仏教が、それぞれの地域と時代でどのような文化を生み出したかを学ぶ。	2～4	*			
41463	比較文化論	世界の歴史的建造物を通して、建築が文化の表現であり、民族性、社会性などを読み取ることができるようにする。	2～4	*		*	
41466	日本の思想と宗教	仏教思想を中心に日本の思想と宗教に関する基礎的な知識と分析方法を習得する。	2～4		*		

副専攻名 考古学・文化資源学

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「考古学・文化資源学概説A・B」を中心に学ぶ。2年次以降は、考古学、比較文化学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方を習得するため、「考古学概説A・B」、「比較文化学概説A・B」、「文化遺産学概説A・B」を学ぶほか、一定の専門性をもった科目の選択によって、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。

副専攻の学習成果

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からフィールドワークを中心にアプローチし、得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4
41465	南アジア文化論	仏教石窟、ヒンドゥー教寺院を通して、建築文化の融合の様相を把握できるようにする。	2～4		*		*
41863	文化交流史	異なる文化圏をまたがる文化現象を対象に、文化の伝播と、それによって生じる受容と変容を考察し、文化史研究の方法論を学ぶ。	2～4	*		*	
41864	宗教文化論	宗教のさまざまな文化を対象に、その特徴、背後にある人々の考え方、社会との関係などを学ぶ。	2～4		*		*
42735	宗教造形論A	おもに中国を中心に、宗教が生み出したさまざまな造形作品を対象として、その具体的なあり方と、背景となる文化を学ぶ。	2～4			*	
42736	宗教造形論B	おもに日本を中心に、宗教が生み出したさまざまな造形作品を対象として、その具体的なあり方と、背景となる文化を学ぶ。	2～4				*
41881	オリエント文化遺産学A	オリエント地方の文化遺産について基礎的な知識を習得する。	2、3				
41882	オリエント文化遺産学B	オリエント地方の文化遺産研究の現状を理解し、文化遺産の保存や活用について理解を深める。	2、3				
41472	西洋美術史A	西洋美術の流れを様式史として把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2～4	*			
41473	西洋美術史B	西欧におけるルネサンス美術について、その時代背景を踏まえて、作品の主題と表現を考察できるようにする。	2～4		*		
41867	西洋美術史C	ロマネスク・ゴシック期の美術について、その時代背景を踏まえて、作品の主題と表現を考察できるようにする。	2～4				
41868	西洋美術史D	西欧におけるルネサンス美術について、その時代背景を踏まえて、作品の主題と表現を考察できるようにする。	2～4				
41869	比較美術史A	キリスト教美術における図像学の重要性について理解する。	2～4				
41870	比較美術史B	美術作品を視覚的かつ歴史的に洞察し、現代的視野でアプローチすることができるようにする。	2～4				
41470	東アジア文化遺産学A	文化遺産学の方法により、日本および東アジア文化やその現状を、世界史的な視点で学ぶ。	2～4				

副専攻名 考古学・文化資源学

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「考古学・文化資源学概説A・B」を中心に学ぶ。2年次以降は、考古学、比較文化学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方を習得するため、「考古学概説A・B」、「比較文化学概説A・B」、「文化遺産学概説A・B」を学ぶほか、一定の専門性をもった科目の選択によって、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。

副専攻の学習成果

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からフィールドワークを中心にアプローチし、得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4
41471	東アジア文化遺産学B	文化遺産学の方法により、日本および東アジア文化やその現状を、世界史的な視点で学ぶ。	2～4				
41883	地域考古学A	諸地域の考古学研究の諸問題について通時的に学び、考察する力を養う。	2～4				
41884	地域考古学B	諸地域の考古学研究の諸問題についてテーマ別に学び、考察する力を養う。	2～4				
41885	社会考古学A	人類社会の複雑化、人間集団の関係、権力、社会組織の規模と性格といった社会的側面を中心とする考古学的研究の基礎について学ぶ。	2～4				
41886	社会考古学B	人類社会の複雑化、人間集団の関係、権力、社会組織の規模と性格といった社会的側面を中心とする考古学的研究の諸事例について検討し、考察する力を養う。	2～4				
41887	比較考古学A	基礎的な考古学的方法により、様々な文化を比較する方法を学ぶ。	2～4				
41888	比較考古学B	自然科学的な考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	2～4				
41889	考古科学A	考古学で実践されている多様な自然科学的研究手法の基礎を学ぶ	2～4				
41891	考古科学B	考古学で実践されている多様な自然科学的研究手法の具体的な事例を学ぶ。	2～4				
41484	比較文化論演習A	仏教に関する文献の読解力と、図像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。	2～4			*	
41485	比較文化論演習B	仏教に関する文献の読解力と、図像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。	2～4				*
41486	南アジア文化論演習A	インドの文化を表象する彫刻、建築の基本的な文献を読み、作品の主題と意匠を文化的背景の中で理解できるようにする。	2～4	*	*	*	
41487	南アジア文化論演習B	文献購読を通して建築用語になじみ、建築意匠の特質を理解できるようにする。	2～4			*	*
41871	文化交流史演習A	文化史、比較文化学の基本的な文献を読み、文化研究の理論と方法を修得する。おもに東洋美術に関する文献を扱う。	2～4	*			

副専攻名 考古学・文化資源学

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「考古学・文化資源学概説A・B」を中心に学ぶ。2年次以降は、考古学、比較文化学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方を習得するため、「考古学概説A・B」、「比較文化学概説A・B」、「文化遺産学概説A・B」を学ぶほか、一定の専門性をもった科目の選択によって、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。

副専攻の学習成果

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からフィールドワークを中心にアプローチし、得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4
41872	文化交流史演習B	文化史、比較文化学の基本的な文献を読み、文化研究の理論と方法を修得する。おもに仏教の実践・儀礼に関する文献を扱う。	2～4		*		
42737	宗教造形論演習A	おもに中国を中心に、宗教が生み出したさまざまな造形作品を対象として、比較文化学の理論と研究手法を習得する。	2～4	*			
42738	宗教造形論演習B	おもに日本を中心に、宗教が生み出したさまざまな造形作品を対象として、比較文化学の理論と研究手法を習得する。	2～4		*		
41893	美術史演習A	美術史学とは何か、美術史の方法論(作品記述、比較、様式論、図像学、図像解釈学)の基礎を身につける。	2～4				
41894	美術史演習B	キリスト教図像学を中心に、キリスト教美術読解の方法を身につける。	2～4				
41494	東アジア文化遺産学演習A	東アジアにおける文化遺産学研究の現状と課題について幅広い知識を身に付けるとともに、実際の研究事例に当たり、理論と方法についても理解を深める。	2～4	*	*		
41495	東アジア文化遺産学演習B	東アジアにおける文化遺産学研究の現状と課題について幅広い知識を身に付けるとともに、実際の研究事例に当たり、理論と方法についても理解を深める。	2～4			*	*
41895	オリエント考古学演習A	オリエント地域の歴史・文化について主に考古資料の分析に立脚しつつ、文字史料、図像資料も駆使して総合的に考察する方法の基礎知識を習得する。	2～4				
41896	オリエント考古学演習B	オリエント地域の歴史・文化について主に考古資料の分析に立脚しつつ、文字史料、図像資料も駆使して総合的に考察する方法の事例について検討する。	2～4				
41897	地域考古学演習A	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学ぶ。	2～4				
41898	地域考古学演習B	地域社会について考古学研究を実施できるようになる。	2～4				
42701	社会考古学演習A	考古学的分析法を通して、社会の階層化や複雑化を復元する方法を学ぶ。	2～4				
42702	社会考古学演習B	考古学的分析法を通して、異文化理解に応用できるようになる。	2～4				
42703	比較考古学演習A	考古学的分析法を通して、東アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2～4				

副専攻名 考古学・文化資源学

副専攻のCP(カリキュラム編成方針)

1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「考古学・文化資源学概説A・B」を中心に学ぶ。2年次以降は、考古学、比較文化学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方を習得するため、「考古学概説A・B」、「比較文化学概説A・B」、「文化遺産学概説A・B」を学ぶほか、一定の専門性をもった科目の選択によって、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。

副専攻の学習成果

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からフィールドワークを中心にアプローチし、得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4
42704	比較考古学演習B	考古学的分析法を通して、アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2～4				
42705	考古科学演習A	考古遺物の放射性炭素年代測定、元素分析、同位体分析で得られたデータを解析し、結果について考察できるようになる。	2～4				
42706	考古科学演習B	生物遺体の化学分析、生物学的解析で得られたデータを解析し、結果について考察できるようになる。	2～4				
41845	比較文化学実習A	仏教儀礼、仏教美術、建築の調査を通して、比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3～4	*			
41846	比較文化学実習B	比較文化学の基礎的な手法とともに、写真撮影の基本的な技術、デジタルデータの処理・整理・保存方法、ワード、エクセル、Photoshop等のソフトウェアの活用法などを身につける。	3～4		*		
41847	比較文化学実習C	比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3～4			*	
41848	比較文化学実習D	比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3～4				*
41853	文化遺産学実習A	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3～4	*			
41854	文化遺産学実習B	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3～4		*		
41855	文化遺産学実習C	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3～4			*	
41856	文化遺産学実習D	文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠な、(各種照明を含む)写真撮影・画像処理・遺構実測・遺物実測・拓本などの基本的スキルを身につける。	3～4				*
42707	考古学実習A	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。レベルの習得に重点を置く。	3～4	*			
72708	考古学実習B	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。平板測量の習得に重点を置く。	3～4		*		
42709	考古学実習C	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。トータル・ステーションの習得に重点を置く。	3～4			*	

副専攻名 考古学・文化資源学**副専攻のCP(カリキュラム編成方針)**

1年次には、フィールド調査やそれをベースにした研究方法について、「考古学・文化資源学概説A・B」を中心に学ぶ。2年次以降は、考古学、比較文化学、文化遺産学の各フィールド系研究領域における基本的な考え方を習得するため、「考古学概説A・B」、「比較文化学概説A・B」、「文化遺産学概説A・B」を学ぶほか、一定の専門性をもった科目の選択によって、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。

副専攻の学習成果

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からフィールドワークを中心にアプローチし、得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

副専攻を構成する科目

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4
42710	考古学実習D	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。写真測量の理解に重点を置く。	3～4				*
42711	考古学実習1	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。土器の実測の習得に重点を置く。	2～4	*			
42712	考古学実習2	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。石器の実測の習得に重点を置く。	2～4		*		
42713	考古学実習3	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。拓本の習得に重点を置く。	2～4			*	
42714	考古学実習4	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。写真撮影の習得に重点を置く。	2～4				*